

伊勢市教育研究所

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成25年6月18日発行

伊勢市教育研究所

伊勢市小俣町元町540番地

# たより



## 教育講演会【県ネット啓発リーダーを迎えて】

### 「教師、保護者の知らない

### ケータイ・インターネットの危険性と大人の役割」

6月14日(金)に、子どもたちを取り巻くネット社会の危険性について学ぶ機会を設けました。お招きしたのは、三重県ネット啓発リーダーの尾崎康美さんと三重県教育委員会生徒指導課充指導主事の奥山敦弘さんです。



三重県教育委員会では、子どもたちのインターネットに関わるさまざまな問題に対応するため、ネット検索や削除、市町や学校との協力による問題解決、ネット啓発活動などの取組を進めています。今回の「情報モラル」に関する講演会もそれらの取組の一つです。

県内には保護者代表のネット啓発リーダーが16名みえるそうですが、尾崎さんもその一人です。たくさんのお示唆に富んだお話を聞かせていただきました。

平成24年度の内閣府発表データによると、青少年の携帯電話所有率は、以下のとおりと

小学校	27.5%	中学校	51.5%	高校	98.1%
-----	-------	-----	-------	----	-------

ということです。心配なのは、小学生の「携帯電話デビュー」がイコール「スマート

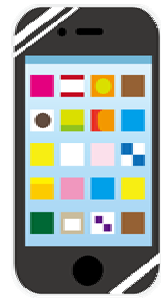
フォン(以下スマホ)デビュー」という現状になってきているということです。より高度な情報処理機能を備えたスマホの急激な普及により、子どもたちがさまざまなトラブルに巻き込まれる事例が増えてきています。

尾崎さんは、「スマホは決して携帯電話が進化したものではなく、手のひらに載るパソコンととらえるべきだ。」と言われました。だからこそ、私たち大人が気を付けて見守るべきことがたくさんあるのです。

スマホの便利さと危険性は表裏一体！

### SNS（ソーシャルネットワークサービス）利用の拡大

例えば「f」（フェイスブック）に挙げた写真が、意図に関係なく大勢の人の知るところとなり、写真に写った背景によって居住地が特定されてしまうこともある。



### クラウドサービスが身近に

インターネット上に情報をストックできるこの機能では、自分のスマホに情報がいっぱいにならない代わりに、自分の意図しないうちに、利用者情報などが公開されてしまう危険性を伴う。

### LINE の魅力

無料音声通話ができることが、子どもたちにとっては最大の魅力。しかし、知らない人とつながってしまう危険性が潜む。友だちを登録すると、LINE をやっている人のところにどんどん登録されてしまい、見も知らない人のところに情報が届くことにも。

### 多様なアプリ機能が利用可能

100 万以上のアプリが存在し、自分の好きなものをカスタマイズできることが魅力。しかし、中には違法アプリも存在する。悪意はなくても情報漏えいに加担してしまう可能性もある。

*無料サイトから有料サイトに巧みにつながり、不正請求がくることもある。*

*利用者情報（通話履歴、位置情報、契約者固有 ID、電話帳データ、E-mail、SNS の利用履歴、商品購入履歴）の漏えいの可能性がある。*

さらに注意したいスマホの問題点

### 実は閉鎖的なコミュニティサイトである

あくまでも招待制の SNS であるため、一般的に中を見ることはできない。つまり、招待されていない人（パスワードを知らない人）は入れない。「友だち友だち」のつながりになってしまう。

*児童生徒からトラブルの訴えがあってもパスワードがなければ入れない。（「不正アクセス禁止法」で禁止されているため）うわさ話では事実はつかめない。*

### 一方で開放的である

「迷惑メールが来るので、新しいアドレスに変更しました。」と、新しいアドレスを掲載し、かえって大っぴらに自分の情報を広く伝えてしまうケースがある。高校生になっても、自分の知っている人や友だちしか情報を見ないという認識の子どもがいる。

「小さな掲示板でも、世界の入り口にある」と子どもたちに教えていく必要がある。

この言葉はとても印象的でした。



では、「いつになったら携帯電話を持たせてよいのか？」という問いに対しては、「小学生の間は持たせてほしくない。」と答えたいと話されました。尾崎さんは、小学校4年生がポイントであると言います。この頃から子どもたちが、「みんな持ってる。」「『〇〇ちゃんも持ちなよ。』と言われた。」と保護者に訴え始めるようです。「塾の帰りに便利だから。」「居場所が分かるから。」という保護者側の理由で携帯電話を持たせ始めるのもこの時期です。

**「ペアレンタル コントロール」が必要！**

子どもに携帯電話を持たせるときに、多くの家庭でルールを決めると思いますが、子どもと保護者の間に意識のズレが生じていることが最近のアンケート調査で分かってきました。保護者に「家庭内で使い方のルールを決めた。」という意識が強いのにに対して、子どもたちのルール意識が低い傾向が見られます。



携帯電話を手にした子どもたちは、家庭内で交わした約束やルールもほどほどに、親の頭越しにさまざまなやりとりを始めます。無料ゲームサイトにも危険な落とし穴があります。ゲームを通して子どもが大人と出会い、思わぬトラブルに巻き込まれることがあるのです。それでも運営会社は、「あくまでも友だちづくりのサイト」という認識ですから、「保護者が子どもの携帯ライフをどれだけコントロールできるか」が肝心なのだと尾崎さんは訴えられました。

子どもがトラブルにまきこまれないように、「判断力」「自制力」「責任能力」が備わるまで持たせない。

持たせるときのキーワード  
「注意・約束」  
「見守り」(安全・安心・自由)  
「相談・指導」の関係づくり

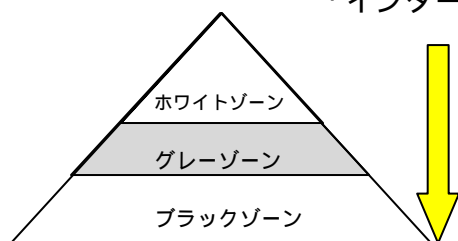
特に、「相談・指導」に関しては、日頃から相談できる関係づくりに努める必要があるとも言われました。子どもたちがネット上のトラブルに巻き込まれた際に、一人で抱え込まず、いつでも保護者や教師など周囲の大人に相談できる関係づくりが大切なのです。

**「保護者の見守りは、最強のフィルタリング」**

最後に、尾崎さんはこう締めくくられました。子どものプライバシーは大事だが、何をしているのかには注意を払うべきである。」と。保護者として大人として、私たちが、子どもたちを「携帯電話依存にさせない。」「ネット被害者にさせない。」「ネット加害者(誰かを傷つけるなど)にさせない。」ように、見守り続けることが大切なのです。

各校でも、ぜひ今回の講演の内容を還元し、校内でもネット啓発講座を企画してみてください。

## 「インターネットの世界」...こんな話も



ホワイトゾーンの情報...天気・交通・辞書など  
ブラックゾーンの情報...被害者・加害者に直結  
矢印が下に向かうほど、情報の質は悪くなる。

グレイゾーンの情報が一番問題。  
誰でも簡単に入ることができ、知らない間にブラックゾーンに入り込むことがある。無料のバナー広告から入ってしまう。

購入時に、必ずフィルタリングを！  
(県教委と docomo、au、SoftBank で提携)



## アンケートより (一部抜粋)

- ・最近の具体的な問題が聞けてたいへん勉強になりました。今日の話はわかりやすかったです。「危険性」を実感しました。しっかりと自分のアンテナを高くし、子どもたちを見守りたいと思います。
- ・最近の子どもたちのケータイ利用状況や子どもたちを取り巻く危険や問題点がよくわかりました。夏休みまでに、子どもたちに危険な世界があることを伝え、判断力・自制力・責任能力を身につけられるよう指導していこうと思います。困ったことがあったら、必ず親や学校に相談することを伝えておこうと思います。
- ・講座の内容がよくわかるのですが、これは保護者に伝えていくことが必要だと感じます。教員だけでは難しく、市をあげてこの講座をしたり、この内容を保護者に伝える支援を考えたりすることが必要です。またこのような内容をコンテンツとして配付されるとよいと思いました。
- ・スマートフォンについて知らないことが多かったので、とても勉強になりました。ラインやツイッターなど自分たちの認識や知識が追いつかないくらい発展しており、その中で子ども達がトラブルに巻き込まれたり人間関係を壊したりしてしまう。中学校教員としては、大変不安なことも多いです。
- ・スマートフォンの危険性と大人の役割がよくわかった。ケータイに依存させない、ネット被害者にさせない、ネット加害者にさせないという親の責任を重く受け止めた。保護者の見守りは最高のフィルタリング、注意・約束が心に染みる言葉となった。ぜひ地区懇などで親や子に啓発していただき、いじめや悪口の書き込み防止や本当のケータイの使い方、ネットマナーやネチケット等を教えてほしいと思った。